大岡昇平全集

第十二巻

大岡昇平全集　第十二巻

定価　三五〇〇円

昭和四十九年五月一日　印刷
昭和四十九年五月十日　発行

著　者　大岡昇平
発行者　高梨　茂
印刷者　山田　博
発行所　中央公論社

東京都中央区京橋二ー一
電話（五六一）五九二一
〒104　振替東京三四

検印廃止
©一九七四

大岡昇平全集　第十二巻　目次

評論　二

文壇論争術

Ⅰ

佐伯彰一批判　3
ニセモノのウシロメタサ　5
佐伯彰一氏を探偵する　7
文学的ニセモノ譚　10
現代文学の主軸はどこに　15
批評の変質　27
批評家のジレンマ　32
篠田一士氏に抗議する　35
「なかはらなかや」は止めて貰いたい　38
悪口屋四カ条　46

Ⅱ　49

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

サド裁判の意味 51
サド裁判受難記 55
田中長官を弾劾する 60
李少年は果して兇悪か 65
集中審理と私 74

Ⅲ

獅子文六とダンテ 77
美男の文学 81
放火魔 88
『パリ繁昌記』礼讃 91
隣人・福田恆存 98
三島由紀夫の「休暇」 102
日　記 107
奇　書 111
実名小説の書き方 115

手術のすすめ 120

Ⅳ

国語審議会の連中は 123
送りがなのまちがえ方 137
あとがき 142

現代小説作法 143
第一章 小説に作法があるかという問題 145
第二章 小説はどう書き出すべきか 149
第三章 作者の位置について 160
第四章 告白について 163
第五章 ストオリーについて 168
第六章 プロットについて 172
第七章 プロットについての続き 178

第八章　主人公について　182
第九章　主人公についての続き　186
第十章　日本文学について　191
第十一章　ハムレット　197
第十二章　人物について　203
第十三章　ムイシキン公爵　208
第十四章　小説の世界　213
第十五章　小説の中の「橋」について　218
第十六章　モデルについて　223
第十七章　描写について　227
第十八章　小説と映画　233
第十九章　心理描写について　238
第二十章　自然描写について　248
第二十一章　自然観の変遷　253
第二十二章　文体について　258

第二十三章　行動小説と性格小説　263
第二十四章　劇的小説　268
第二十五章　要　約　272
補　章　推理小説ノート　275
あとがき　280

昭和文学への証言

Ⅰ　小林秀雄　283
人生の教師　285
小林秀雄の世代　285
Xへの手紙　297
歴史と文学　317
小林秀雄の書棚　324
『無私の精神』　330
333

『考へるヒント』 334
『「白痴」について』 335
小林秀雄書誌上の一細目について 337
ソバ屋の思い出 340

Ⅱ　同時代への証言 343
永井龍男 343
中山義秀 361
坂口安吾 364
青春放浪 367

Ⅲ　明治・大正の作家たち 379
森　鷗外 379
幸田露伴 390
泉　鏡花 404
樋口一葉 418
徳富蘆花 423

国木田独歩 428
永井荷風 433
夏目漱石 445
芥川龍之介 447
あとがき 458

未刊行論文 一九五九年—一九六八年

憂楽帳 『毎日新聞』 459
あすへの話題 『日本経済新聞』 461
サド裁判の意味するもの 469
「強くなる本」というもの 491
一年悪口をいいつづけると 493
わが小説『武蔵野夫人』 499
江藤淳『小林秀雄』 501
503

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

傑作の条件　505
『神西清全集』に寄せて　506
「ニュールンベルグ裁判」を見て　508
「若草物語」を終えて　511
河上徹太郎『わがデカダンス』　513
大衆文学再批判　515
慢心を去れ　526
匿名批評論　531
戦後文学は復活した　533
本多秋五『続物語戦後文学史』　543
白鳥の死をめぐって　544
「象徴」を追う現代文学　547
新しい興味　549
紅葉一面　551
創作者と鑑賞者　553

日記文学の魅力 557
新劇と私 559
東大ギリシャ悲劇研究会 562
私と戦争 567
自発的禁書 569
平野謙『文芸時評』 572
文学全集の基準 574
歴史小説とはなにか 576
ヨハン・ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』 578
サド裁判に期待するもの 579
三好達治さんを悼む 583
今週のまど『週刊読売』 584
なぜ「天誅組」を書くか 595
文士は裁判に弱い 598
紀元節の思い出 601

吉田秀和『批評草紙』 603
永井龍男『一個その他』 605
二十年後 606
正宗白鳥一面 607
この八月十五日 611
思い出 613
『大阪市史』 615
後藤亮『正宗白鳥——文学と生涯』 617
秋の悲歎 618
江藤君の印象 620
ロマンチックなバルザック 623
三度目の『中原中也全集』 625
ジード『贋金つかい』 627
思い出すこと 628

解題

池田純溢

評論 二

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com